

本を選ぶ

NO.461 2023年(令和5年)10月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>流木バイオリン

●司書の眼 第53回

—「本当に大切なものは目に見えないんだ」—



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

流木バイオリン

イギリス中部のノーサンバーランドにある世界遺産「ハドリアヌスの長城」で、「英国で最も撮影された木の一つ」とされるシカモア（セイヨウカジカエデ）の木が伐採されているのが発見された、との新聞報道（9月28日共同）に驚いた。これほど有名な樹齢300年ほどと推定される大木を伐るとは。地元警察は28日、16歳の少年を器物損壊容疑で逮捕し、さらに60歳の男も逮捕して調べている。（9月28日毎日新聞夕刊）

記事によれば、ハドリアヌスの長城はローマ帝国時代に築かれた城壁で、伐採された木は「シカモア・ギャップ・ツリー」と呼ばれ、地元で長く愛され、丘のくぼみに1本だけ立つ姿が世界中の写真家や観光客を魅了してきたという。

伐り倒されたこのカエデの大木は、今後どんな風に活用されるのか、気になるところだ。できれば丸ごと一本、そのまま巨大な彫刻として残してほしいと妄想してしまった。

思い出されるのは、東日本大震災による津波でほぼ全滅した陸前高田の高田松原で1本だけ残った奇跡の一本松のエピソード。結局この松は枯れてしまったが、地元の専門家の努力の甲斐あって、枝の接ぎ木で命を受け継ぐことに成功したらしい。

そうした中で生まれたのが津波で被害にあった流木を材料にして制作されたバイオリン2挺とピオラ1挺。のちに当時の皇太子が母校の学習院大学OB管弦楽団定期演奏会（2013年7月）でこのピオラを演奏されたそうだ。

この流木バイオリンなどを制作したのは弦楽器制作者・修復家の中澤宗幸氏。（『いのちのヴァイオリン—森からの贈り物—』中澤宗幸著／ポプラ社 / 2012年）この松原から流失した赤松や黒松を使ったわけではなく津波で流された木材資源、それも家屋などから出た廃材を採用したのだろう。特に楽器の裏板は、流れついた中からイタヤカエデを探し出して使っていると思われる。

バイオリンやピオラの裏板は、通常バルカン材と呼ばれる東南ヨーロッパ原産のカエデの仲間得上質のシカモアメイプルで作られる。材が緻密で硬く、美しい杓目が特徴的だ。ストラディバリウスなどの名器と言われる弦楽器の材料として知られる。一方で国産のカエデ材と言えば、北海道から東北にかけて植生するイタヤカエデで、実際戦前の日本でも裏板の材料として使われていたようだ。しかし重く硬すぎて金属的な音になるなどの性質から戦後では見かけないという。（『ヴァイオリン』無量塔蔵六著／岩波新書／1975）

2018年に世界中のストラディバリウス21挺が東京に集結するという未曾有の企画を実現し、東京の六本木で圧巻の展示会をやったのけたのは中澤氏の子息、中澤創太氏。あろうことか、この二度とない機会をなんと見逃してしまった。ああ。（埜村 太郎）

司書の眼 第53回

——「本当に大切なものは目に見えないんだ」——

鷹野 祐子

10月はディスレクシア月間だ。ディスレクシアは限局性学習症（いわゆる学習障害、LD）のひとつで、全体的な発達には遅れないのに文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振になったり、二次的な学校不適応などが生じる疾患である（[国立成育医療研究センターHP](#)より）。

読字に困難があると書字にも困難があることが多く、発達性読み書き障害と呼ばれることもある。要因としては、音韻処理に困難があり、文字とその音の対応が自動化しにくい、つまり五感、特に視覚と聴覚からの刺激を「語」として認識することに苦手感がある人たちがいる。たとえば、幼児期には「運動の敏感期」「感覚の敏感期」のあとに、「言語の敏感期」というものが3歳半から5歳半くらいに訪れると、モンテッソーリ女史は言っている。子どもによって発達の差があるが、「言語の敏感期」はまざ生後7か月ごろ「話し言葉」に興味を持つことから始まり、その後運動の敏感期とともに「文字」を書くという興味に移行して、語や句を獲得していく。保育園や幼稚園での5歳ごろにお手紙ブームが来た子どもも多いだろう。けれども、お話が上手でいつもぺちゃくちゃ話している子どもであっても、文字に興味がなく、覚えようとしていない子がいる。ディスレクシアは小学校に入ったころにわかることが多いが、クラスに数人いるといわれている。

ディスレクシアの根底には音韻処理困難があり、表記された文字とその読み（音）の対応が自動化しにくく、それを司る脳機能の発達が未熟であるとされている。例えば、1年生になっても、幼児にありがちな文字を一つ一つ拾って読む（逐次読み）から、語あるいは文節のまとまりに移行しづらかったり、視覚的な記憶に苦手があれば、教科書の音読で読んでいるところがわからなくなってしまったりする。聴覚記憶に苦手感があれば、ポップコーンをコップポーンのように聞き間違えるなどするが、知能的発達に問題がないことが多いので、一度、音読して内容理解ができると二回目の読みは比較的スムーズに

なったりする。もう少し学年が上がると、文末まで文字を追うことが苦手なので、「公園にいったのでしょうね」と書いてあっても、「公園にいきました」と文末を適当に自分で変えて読んでしまう「勝手読み」をしたりする。また、文字を書くこと（書字）についても、空間認知が弱いと、左右上下に対象な図形文字b d p qなどを混同したり、ateをaetと書き順序が変わってしまったり、「雷」と「雪」のように形態的に似ている文字の誤りが多い。書き順も覚えにくく、枠の中に描くことが苦手だったりする。聴覚認知の弱さから促音や撥音、二重母音の誤りが多いこともある。ディスレクシアの子どもたちは、文字を正しくは読むのが極端に遅いし、よく間違える。ということは、現在の学校教育では理解度に比べて紙のテストで点数が取れにくい。つまり正しく評価されないことは学習障害となり、本人にも学習に対する拒否感が生じてしまう。その結果、さらに学年相当の語彙や知識が不足して学業不振が著しくなっていく。

アウトリーチサービスもバリアフリー化が必要

小澤彩果（おざわあやか）さんは、小学校2年生のときにディスレクシアと診断された。夏休みには泣きながら読みの特訓をしたけれど、いっこうに読めるようにはならなかった。大阪医科薬科大学LDセンターにつながることができ、5年生の時にDAISY教科書（マルチメディアデージー教科書）に出会ったことから教科書の内容も良く理解できるようになり、高校からは合理的配慮を受けながらその後大学院まで学んだ。学校教育では当たり前の紙に書かれたまた書く文字だけではなく、テキストに音声シンクロさせて読むことができるマルチメディアデージー教科書によって、学べる子どもが一人増えたのである。DAISY教科書は、視覚障害のある方から、LDや学習障害の子どもへ広がり、また今日では読み書き困難な児童生徒が在籍する場合、一斉授業での使用が可能となっているので、読み書き困

難な子がほとんどのクラスにいることを考えると、すべての小学生が使えるようになっていく。文部科学省が進めた2008年の「教科用特定図書普及促進法（教科書バリアフリー法）」と「著作権法第33条の2」の改正、義務教育を受ける児童生徒1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する2020年のGIGAスクール構想によって、生徒たちの学習環境は様変わりした。図書館でも、聴覚障害者サービスであった音声資料や拡大図書が、電子書籍やオーディオブックの登場で一般利用者にも開放された。ディスレクシアの子どもたちの学習環境はよくなっただろうか。

ところがそうでもない。一番大事なユーザーインターフェース（UI）が文字情報のままなのだ。資料が用意されていても、検索するのに文字情報を使わなければならないし、検索結果もフリガナがないので読めない。結局当事者にはリーチしていないのである。図書館でのアウトリーチサービスとは、図書館が利用者の近くまで出向いて、資料や情報、図書館員と一緒に移動させ、資料案内や予約、貸出などの図書館サービスを提供する活動である。資料がデジタルになったら、アウトリーチサービスもバリアフリー化しなければ届かないことを図書館員は気がつかなければならない。

最近公共図書館でも導入された電子資料は、来館せずその場で利用できて大変便利で、読み上げ機能がついている資料まである。多くは大手出版社のパッケージだが、導入を選定した人は、試しにこの読み上げ機能を使ってみただろうか、聞きにくい単一の機械音、大量の読み間違えに辟易するだろう。最低でも数種類の音声の切り替えができること、スピードを切り替えられること、任意のところで停止・再開する機能が必須ではないだろうか。最近のスマートフォン・アプリでの読み上げにも対応できるように目には見えないテキストにも配慮してほしい。スクリーンリーダーなど音声読み上げソフトを利用しているユーザに配慮したテキストの表記はデジタル・アクセスビリティの基本中の基本である。また、OpenAIはChatGPTに音声返答と画像認識機能を搭載した。音声で質問すると、会話をするように回答されるし、写真を送信してその画像を認識する

ことで、操作や提案などもできるようになってきている。文字がコミュニケーションを支配している社会ももうすぐ変わってきそうな気がする。

学習の形が大きく変わる

高校生の子どもの保護者会があった。今後の進路について説明する内容で、校長、進路指導担当者の挨拶の後、大学受験システムや進学に際して必要なお金について説明するプロの役者が登場した。これまでも学生用に寸劇で説明することはあったらしい。今までの学校だったら、保護者向けには文字がいっぱいのプリントを配布して、延々説明を読み上げていただろう。しかし、高校ともなれば保護者の生活環境も大きく異なることが予想され、いろいろな配慮の上で「劇での説明」にしたものと思われる。お芝居ならば、何しろ文字を読む必要がないし、話し言葉で小難しい説明をよりわかりやすくかみ砕いてくれた。合理的配慮もここまで来たり、と思ったのだった。東京都は、教育のICT化を進める「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の一環として、都立高校の高校生に1人1台のPC（タブレット等含む）を導入した。授業では小テストや課題提出はパソコンを通して行い、委員会の連絡もグループチャットを使う。板書はスクリーンショット、理科の実験は動画をとることもできる。課題にはChatGPTを使ってはいけないことになっているが、例えば、英語のエッセイ作成などは「高校生が読む英語のエッセイで。私の大切にしていることという内容で、100単語で英語で作って」ちょうどいい内容で作ってくれる。

Friendship and self-improvement are my guiding lights. I cherish the bonds of friendship that bring joy and support to my life. These connections teach me empathy and understanding.

Equally, I value learning as it's the foundation for my future. High school is where I hone my skills, explore new horizons, and prepare for what lies ahead. It's a period of growth and discovery, and

I embrace it with enthusiasm.

Friendship and learning together shape my values and aspirations, enriching my high school experience and setting the stage for a bright future.

(友情と自己啓発が私の指針です。私の人生に喜びと支えをもたらしてくれる友情の絆を大切にしている。こうしたつながりは、私に共感と理解を教えてくれる。

同様に、私は学ぶことを大切にしている。高校は、自分のスキルを磨き、新たな地平を開拓し、その先にあるものに備える場所です。成長と発見の時期であり、私はそれを熱意をもって受け入れている。

友情と学習が私の価値観と願望を形成し、高校生活をより豊かなものにし、明るい未来への舞台を整えてくれるのです。)

これを Google 翻訳にコピペして、日本語にした後、若干修正し、再度英語にしたら「音声読み上げ」機能でエッセイを覚える。先生方の対応も大変だったと思うが、学習の形が大きく変わっていているのがわかる。先ほどの保護者会でも、今後は学力考査がなくなり、AI による人物評価になっていだろうと進学カウンセラーが言っていた。AI のほうが一発勝負の試験や面接担当者の経験や勘に頼る判断より公平で客観的であるという。AI は子どもたちの未来の可能性までも見通してくれるらしい。

「星の王子さま」を教材に

趣味で小中学生に英語を教えている。今年度の中学2年生の学校の教科書に「星の王子さま」が載っていた。英語コミュニケーションの必要性からか最近の教科書本文は会話文やエッセイが多いのだが、高校入試では長文での出題が多いので、参考資料として落語や名作童話が掲載されていることが多い。教科書に載っている「星の王子さま」のあらすじを確認してみた。その星には「ちいさな王子さま (The Little Prince)」が一人で住んでいて、ある時他の星に行ってみようと思いつく。一つ目の星には、星の数を数えることに夢中のビジネスマンと出会う。

「星は全部わたしのものだ」「星でどうするの?」「金持ちになりたいのだ。金持ちになってもっと星を買う。」「もっと星があったらどうするの?」「数えるのだ」「それだけ?」「それで充分だ!」。

二つ目の星では地理学者に出会う。地理学者は自分の星に川や山があるかどうかも知らなかった。「わたしは地理学者であって探検者ではない。地理学者は探検者に聞いて記録するのが仕事だ。この星に探検者はいない。だから私はこの星に川や山があることをしらないのだ」と地理学者はいった。王子さまはなんだか悲しくなって次の星へ向かった。三番目の星には王様がひとりいて、その星ではあくびをするのにも王様の許可が必要だった。そして教科書は「王子さまが地球にきたらどんな質問をするのでしょうか」という問いでこのエッセイ(?)が終わっている。「星の王子さま」ってこういう話だけ?

「星の王子さま」といえば、世界における名作中の名作で、本を読む人のほとんどが読んでいるだろうと、私の周辺の人にその作品のイメージを聞いてみた。ある人は「夢の実現」といい(本当に読んだ??)、ある人は説教臭いといった(その人は、私の中では説教臭さでレオレオニと1、2を争うミヒャエル・エンデの作品は説教臭くないといっていたので、作品へのイメージとは読み手がその作品と出会った時期にもよるのかもしれない)。私は、「星の王子さま」を思うとき、顔がついているいじわるな赤いバラが王子さまをさんざん困らせるという絵と、ウワバミがゾウを飲み込むという絵の両方が浮かんで来て、一体どんなお話だったか本当は全部読んでいないかも、と思って、まず、オーディオブックで英語版を聞いてみたが、リチャードギアの声が心地よすぎて睡魔が襲い、後半お話がわからなくなる。しかたがないので、日本語版を近隣自治体の電子書籍(小学館世界J文学館/平岡敦訳/2023)で慌てて読んだ。そしてそこにはウワバミは出てこなかった。

ウワバミどこに行ってしまったの? 代わりにボアという大蛇が出てきた

サン＝テグジュペリが書いた原文のフランス語版

の著作権が切れ、だれでも翻訳ができるようになった。ちなみに Katherine Woods 翻訳の英語版はまだ著作権が切れていないが、University of British Columbia のブログで無料 PDF が公開されている (<https://blogs.ubc.ca/edcp508/files/2016/02/TheLittlePrince.pdf>)。日本語訳は 1953 年から岩波書店の内藤濯氏のものが重版されていたが、2005 年の翻訳出版権の消失により様々な訳が出版されることになった。ウワバミは原文仏語では un serpent boa 英語では a boa constrictor、最近の日本語版では大蛇ボア。Boa をウワバミと訳した内藤氏のセンスに脱帽である。第 1 ページ目から「ウワバミって聞いたことないし、なんだかわからないけど大きなものをのみこんじゃうほど怖い生き物 (絵から蛇とわかる)」という印象的な書き出しだ。タイトルの Le Petit Prince も「小さな王子さま」という直訳だが星からきた王子さまというニュアンスを私たちに伝えてくれている。まあ、原文に忠実に訳すということと、原文の持っているニュアンスも一緒に訳すというのは好きなかもしれない。

Do the hokey pokey

「星の王子さま」は飛行機乗りの「僕」によって語られている。原作では、ちいさな王子さまは自分の星でいろいろあって、様々なメタファーがちりばめられた 6 つの星を回った後、地理学者の導きで 7

番目の星・地球にやってくる。そこでいくつかの生き物と出会い、砂漠で僕にであう。今度小学 4 年生の読み聞かせに使おうと思っていた奥本大三郎氏訳の「星の王子さま」(白泉社/2007) では地球以外の星は出てこないからどうしよう。このお話は、途中でどこか違う星にいつてしまったり、哲学的な話になったりするので、どうも挫折しがちである。そんなわかりにくい、途中で挫折したり、読んだことのない人も、ぜひこの機会に読み英語の教科書とは全く違うメッセージをちゃんと受け取ってくれることを祈っている。とはいえ、時間がないビジネスマンや地理学者みたいな人たちは NHK for School おはなしのくに (https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150542_00000) や、元有名芸人の YouTube でもまとめてくれているので、内容を掘りかきかけにしてもいいかもしれない。外国の物語は、翻訳家が違くと受け取るイメージも変わってくるので、講談社青い鳥文庫、集英社文庫、新潮文庫と図書館員らしく読み比べてみるのも楽しいかもしれない。アニメーション映画『リトルプリンス 星の王子さまと私』でも、前半は原作を踏襲している。働きすぎて、もう時間がなくなりすぎている大人たちでも、大切なものは目に見えないけれど、砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠しているから、ということを忘れずに。

(たかの ゆうこ：医学系研究所図書室)

DMがたろく

ESTRELA

■2023年10月号
No.355/10月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

[特集] 経済構造統計の整備の更なる進展

■ 2022年経済構造実態調査二次集計結果の概要

樽松 良祐(総務省統計局統計調査部降経済統計課課長補佐(企画・調整・審査発表担当)(併任)統計局事業所情報管理課課長補佐)

■ 令和3年経済センサス - 活動調査の実施状況及び公表結果の概要について

風間 政和(総務省統計局統計調査部降経済統計課経済センサス室課長補佐)

■ 令和16年経済センサス - 基礎調査の実施に向けて

江澤 貴裕(総務省統計局事業所情報管理課統計専門官(経済センサス - 基礎調査企画担当))

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.org.jp/>

Think Asia

NO.53 2023 autumn-winter

被爆したラザク氏とルック・イースト・・・伴武澄

サーターアンダギー・・・・・・・・・・西井和弥

タイ社会を貫く最大の仏教的観念:タムブン

・・・・・・・・・・シュムブラング・ナッタデット

激動の嵐の時代と近衛秀磨・・・・・・・・・・石戸信也

兎爺・・・・・・・・・・丁美堂

一般財団法人 霞山会(文化事業部)

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47

電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306

<https://www.kazankai.org/>

N.スタンリック／藤井翔太 訳

アメリカ哲学入門

定評ある入門書であるとともに従来哲学史観に挑戦する書。 3630円



M.シュトライス／福岡安都子 訳

ドイツ公法史入門

数世紀にわたる憲法の歴史を描く、ドイツ公法史の金字塔。 3850円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

まちにとけこむ 公認心理師

ひろがる心理支援のかたち

津川律子・遠藤裕乃 [編] ●10月下旬刊/四六判

いよいよ本格化する公認心理師制度。枠に囚われず多彩な分野で活躍する心理職たちが、業務開拓に至る道のりを明かし、未来を語る。 定価2420円(税込)
ISBN 978-4-535-56423-7



代数学

雪江明彦 [著] 第2版

読者から圧倒的支持をいただいた代数学シリーズ(全3巻)を第2版化。

1 群論入門 定価2310円(税込)
ISBN 978-4-535-78997-5

2 環と体とガロア理論 定価3410円(税込)
ISBN 978-4-535-78998-2

3 代数学のひろがり 予価4730円(税込) ●24年1月刊
ISBN 978-4-535-78999-9



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nipponyoko.jp>

子育てを
めぐる
往復書簡

気は やさしくて 力持ち

三砂ちづる
CHIZURU MIYAZO

内田樹
TATSURU UCHIDA

子育てにおいて、いちばん大切なことは「子どもに対して敬意を以て接すること」。男手で女の子を育てた内田先生と、女手で男の子を育てた三砂先生による、旧くてあたらしい子育て論。 1980円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

台風や水害、地震や火山活動は
なぜ日本に多いのか?
自然災害が起きる理由を
「地理学」の視点から解説!



地理の基本 防災編

長谷川直子
鈴木 康弘 編
定価2,420円(税込)

2023年9月刊行 A5判 並製 224頁 ISBN:978-4-634-59204-9 C0025

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

血まみれの暴君は「本の虫」でもあった。膨大な蔵書と本への書き込みを精査し、思想と信条から、革命と戦争、国政と外交に及ぼした影響、人格と感情の内奥にまで踏み込む。英国の歴史家による、新趣向の伝記。

四六判 / 450頁
定価4,950円(税込)

ジェフリー・ロバーツ [著]
松島 芳彦 [訳]

スターリンの図書室

独裁者または読書家の横顔



白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

フェミニスト経済学

経済社会をジェンダーでとらえる

長田華子・金井 郁・古沢希代子 編

フェミニズムの視点から、すべての人のウェルビーイングの実現をめざす。日本ではじめてのフェミニスト経済学のテキスト! ケアを中心にすえた経済学へ。

A5判 4,070円

国際社会学・超入門

移民問題から考える社会学

樽本英樹 著

移民をめぐる身近な話題から出発し、流布されがちな「神話」を客観的な事実やデータによってとらえ直す。国際社会学の基礎的な用語や理論も学べる超入門書。

y-knot 四六判 2,200円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込